

地方創生の実現に向けた山国川の渡架橋及びそれに繋がる道路の早期整備を求める決議

大分県北部から中津市の産業道路（小祝鍋島線）を通り、福岡県東部に至る道路整備は、大分県北部地域及び京築北九州東部地域の交通の円滑化、自動車産業等を核とした更なる企業誘致による産業や観光の振興、雇用の確保、定住の促進、スポーツ・文化施設等を活用した県際間交流の推進、交通事故防止などの生活環境の向上等、道路ネットワークが形成されることによる大きな経済効果や波及効果が期待される。

中津市では、平成15年9月に山国川の支流である中津川に架かる「竜王橋」が完成し、平成16年12月に、現ダイハツ九州株式会社の進出に伴い、沿岸部を通り小祝漁港までの都市計画道路など、経済・物流道路が急ピッチに進められた。

しかし、大分県側と福岡県側の山国川の渡架橋と、それに繋がる重要な道路整備は未着手であり、地方創生に向けた大分県、福岡県の両県境の発展の大きな妨げとなっている。

中津市及び吉富町は古来より生活圏を共にしてきた。吉富町は、平成21年11月の九州周防灘地域定住自立圏の協定では、未締結であったが、令和2年1月の協定締結に向けて、事務作業が進められている。このことにより、行政サービスなどを共有し、圏域での連携を強めることとあわせて、道路ネットワークを強化することによる小児救急医療体制や公共交通の確保、広域観光圏の推進など、さらに大きな期待が寄せられている。

よって、中津市議会は吉富町議会とともに、一級河川山国川最下流の渡架橋の早期実現に向けての道路計画策定と工事着手を、中津市及び吉富町と連携し、大分県、福岡県に強く要望することを決議する。

以上、決議する。

令和元年12月20日

大分県中津市議会